

平成 24 年度の取組の概要

1 重点取組事項

- 1 自らの命は自ら守る児童の育成
地域を見直し、防災マップを作成して災害時に役立てさせる。
- 2 避難訓練の見直し
多様な避難訓練を実施し、災害対応マニュアルを見直す。
- 3 防災に関する授業づくり
各学年学級で防災に関する授業に取り組む。
- 4 防災教育年間指導計画の作成
各教科、領域における防災に関する指導内容を拾い出し、防災教育年間指導計画の原案を作成する。

2 今年度の主な取組について

- 1 ○6月8日の引き渡し訓練終了後に保護者と児童が共に下校し、通学路の安全確認を行った。大きな地震が起きたら倒れてきそうなもの、崩れてきそうなもの、落ちてきそうなもの、その他の危険箇所や、「子ども110番の家」を確認し、「わたしの防災マップ」に記入した。その後、全校の児童のマップを集約し、「将監西小防災マップ」を作成し、配布、掲示した。
- 11月19日に避難訓練、および集団下校指導を実施した。集団下校グループに分かれ、地区担当教員がマップをもとに、登下校時に大きな地震が起きた場合はどのような行動をとればよいかを指導した。



- 2 ○5月の防犯訓練（不審者対応）と集団下校訓練，6月の避難訓練（授業時の地震を想定），および引き渡し訓練，11月の避難訓練（休み時間の地震を想定）と，それぞれの訓練において，より現実的な訓練にするために計画を見直した。（放送機器が使えない，非常持ち出し袋の用意，通信手段が途絶えたときの校門への連絡掲示 等）
- 家庭訪問を実施していないため，6月と夏休みに各学級の児童の自宅確認を行った。
- 避難訓練の事前指導で使用できるワークシートを作成した。訓練終了後には，児童に振り返りカードを書かせ意識づけを図った。また，保護者や職員からも反省やアンケートをとり，対応マニュアルの見直しの参考とした。
- 3 ○職員研修として，中学校区の防災講演会に参加した。SONAE仙台防災研究所の古橋信彦所長より，「クロスロードゲーム」の紹介と演習や，防災教育の指針や地域との連携の在り方などの講演をいただいた。
- 8月30日の学校参観において全校で防災に関する授業に取り組んだ。副読本を利用した授業や，防災袋の中身を考えアルファ米を保護者と共に試食する授業，着衣泳の授業などが行われた。



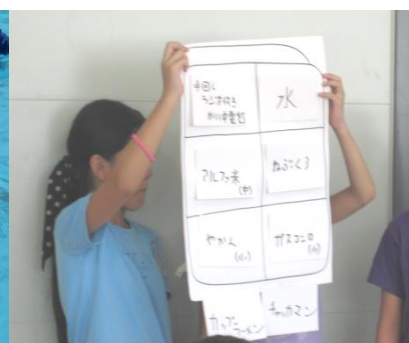
< 6年「地震を知り災害に備えよう」>

地震や津波の起き方を知り，災害時の心構えや必要な備えについて考える。



< 3, 4年 着衣泳 >

川や海などにおいて危険な状態から身を守る方法を知る。



< 5年「災害に備えよう」>

防災リュックにはどのようなものを入れたらよいかを考える。

○将監中学校からの教材や教具の借用，中学生のボランティア体験を6年生が聞く学習など，中学校との連携を図った

- 4 ○各学年の学習指導内容から防災に関連する内容を拾い出し，集約して年間指導計画の原案を作成した。近隣の小学校とも情報を交換し合い，見直しを行った。

3 成果と課題

○防災マップを作成し児童に提示することで，地域の防災に関心を持たせることができた。今回は，集約と作成は教師が行ったが，総合学習の時間を利用して児童の手で作成させる方がより効果的であると思われる。マップの作成や活用について，総合学習のテーマに沿って年間指導計画にどのように位置づけしていくかが課題である。また，年間指導計画についても，今年度は防災に関する学習内容を拾い出し列挙する形で作成したが，どの学年で何を学ばせるか，副読本をどのように活用していくか等，系統性を考えてさらに吟味していく必要がある。

○防災講演会でも講師の先生から地域との連携の大切さをお話いただいた。本校では地域との合同防災訓練等を実施していないが，地域と共に行う防災教育の足がかりを今後築いていく必要がある。

